



認定NPO法人発足に伴う変更事項
 一般寄付・賛助会費は税控除の対象となりますので、領収書をお送り致します。

2011年12月1日から2012年5月1日までにご寄付頂いた皆様方のお名前です。ありがとうございました。

- | | |
|------------------------------|-------------|
| 酒匂 睦子 様 | 八田 美由紀 様 |
| 松井 美紀子 様 | 杉浦 朱實 様 |
| 伊地知 修 様 | 細山 由美 様 |
| 鉾之原 昌 様 | 永井 良英 様 |
| 掛下 光晴 様 | 上野 凌太 様 |
| 福川 勉功 様 | 池田 琢哉 様 |
| 江口 智 様 | 岩松 洋一 様 |
| 神本 三千男 様 | 鮫島 信一 様 |
| 佐藤 恭子 様 | フロンティアナイト 様 |
| 宇宿 邑子 様 | 大竹行政書士事務所 様 |
| 武山 貴子 様 | 国分酒造協業組合 様 |
| 今村 均 様 | 荘氣横山 様 |
| 石川 篤子 様 | 河野 嘉文 様 |
| 鹿児島大学小児科医局 様 | |
| ピーエス・ライン株式会社代表取締役 嶋山 忠司 様 | |
| イオン九州株式会社 イオン鹿児島ショッピングセンター 様 | |

■一般寄付

本法人の活動意義をご理解頂き、ご寄附を賜りますようお願い致します。現金收受の方法は、事務局へお問い合わせ下さい。

■個人賛助会員：年会費・・・・・・12,000円

■法人賛助会員：年会費・・・・・・120,000円

■募金箱

募金箱をお置きいただける店舗・企業・他を募集しております。ご賛同いただける方は、事務局までご連絡下さい。

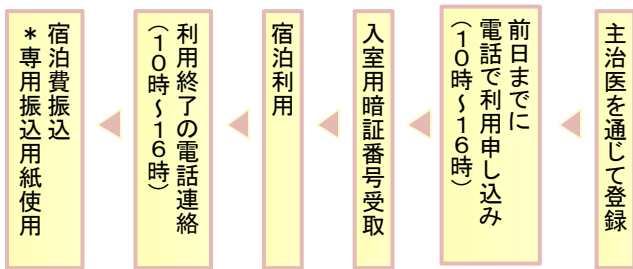
本法人の活動意義をご理解頂き、活動を支援いただける個人又は企業の入会をお願いしております。

入会申込書をホームページからダウンロードして事務局へお送り下さい。

「鹿児島ファミリーハウス」のご利用方法

- 鹿児島市内の病院に通院、入院する患児とご家族のための宿泊施設です。
- 基本的な電化製品・台所用品・寝具・他のご用意があります。
- 1,000円/1泊(宿泊人数は何人でもOK)でご利用できます。
- セルフサービス(清掃、ゴミの始末、その他)です。
- ボランティアの方達によって維持管理して頂いております。ご協力。

ご利用の流れ



* (注)要/事前登録/ご希望の方は主治医にご相談下さい。

篤志家のご協力の下に鹿児島市鴨池2丁目(鴨池電停から徒歩1分)にあるビルの部屋(1K、1DK)をご提供頂き、平成19年7月からNPO法人子ども医療ネットワーク運営の鹿児島ファミリーハウスが誕生しました。

お問い合わせ/子ども医療ネットワーク事務局 TEL 099-275-5354

お問い合わせ先

認定NPO法人子ども医療ネットワーク本部

〒890-8520 鹿児島県鹿児島市桜ヶ丘8-35-1
 鹿児島大学医学部・歯学部附属病院 小児診療センター小児科内
 電話：099-275-5354

認定NPO法人子ども医療ネットワーク事務局

電話：099-275-5354 / FAX:099-265-7196

活動について・お約束

活動 離島やへき地など、小児医療の専門医が少ない地域に住んでいる子どもさんが、長期間の入院が必要な病気にかかった時に、ご家族を含めて安心して闘病できるように支援する事を目的に設立されました。又、難病等にかかり遠方から来院なさるおこさんとそのご家族にも広く門戸を開き、病気に対する不安や疑問を軽減し、外泊あるいは通院にかかる負担を軽減する為の事業を行います。すべてが皆様の共感とご協力のもとに運営されています。

お約束 皆様からお預かりした個人情報は
 ・会員のご案内の発送以外の目的で使用する事はありません。
 ・ご本人の同意なく第三者に開示・提供する事はありません。

ホームページは随時更新中です

<http://www.kufm.kagoshima-u.ac.jp/~ped/kodomoiryo/>

会員の方々と事務局を結ぶ.....

こねっと通信

2012.SPRING VOL.10

■ファミリーハウス

■健康相談会・巡回診療

■子ども救急箱

■ふれあいコンサート

■その他



Save the Children
 私達は離島・へき地の
 難病児を支援します

すべての子どもに適切な小児医療と
 快適な闘病生活を

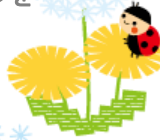
認定特定非営利活動法人(認定NPO法人)
 子ども医療ネットワーク



第七期総会を終えて

去る2月18日19時頃からJR九州ホテル鹿児島での会議室で当法人の第七期社員総会が開催されました。議事内容は例年通りでしたが、第七期後半に事務局機能の移転を行いましたので、従来の記録等について随時八田美由紀さんに伺いながら何とか新しい体制での運営をスタートできました。決算、予算のほか、役員の交代、事務局機能の移転に伴う種々の案件を議論し、今後の方針について意見交換を行いました。新体制についてはホームページでご確認ください。

子ども医療ネットワーク
平成24年の活動予定は
ホームページを随時更新
致しますのでホームページを
ご覧ください。

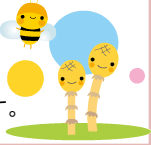


活動の活性化戦略については更なる工夫が必要ですが、あくまでもすべての社員が本業ではなくボランティアで参画する法人として運営する方針に変更はありません。

こねっとなし

■ 認定NPO法人子ども医療ネットワークのホームページは下記URLに移行致しました。
<http://www.kufm.kagoshima-u.ac.jp/~ped/kodomoiryo/>

■ 平成23年9月で荒田2丁目のファミリーハウス(1室)の使用が終了致しました。



※鴨池2丁目(3室)は、従来通り稼働しております。

「子ども救急箱」冊子ご希望の方へ

毎月隔週で南日本新聞に掲載されている「あんしん救急箱」50回、100回を記念してそれぞれ冊子を作成しました。冊子をご希望の方に実費をお振込み頂き、お分けしています。



Vol.1「50回記念」 Vol.2「100回記念」

※詳しくは、ホームページをご覧ください

「子ども健康相談会」与論報告書から

幅広い層からのサポートが認定NPO法人の基盤ですので、引き続きまして関係各位のご支援をよろしくお願い申し上げます。
(理事長 河野嘉文)

平成24年3月17日に与論町保健センターで健康相談会と与論町福祉センターで講演会を開催しました。健康相談会には7名の相談者と講演会には約25名程度の方々に来ていただきました。

相談会では、時間を多く設けていたので、時間をかけて相談に応じることができたと思います。また講演会では鹿児島大学保健学科教授、吉留厚子先生から性教育に関する講演(特に性感染症、携帯メールのリスクについて)、鹿児島県子ども総合療育センター、中村美保子医師から発達障害のお子さんへの対応、鹿児島大学病院小児科の倉内宏一郎医師から、小児の心肺蘇生とAEDの使用方法に関する講演と、人形を用いた実習を行いました。今回、パナウル診療所の古川先生や同院で

研修中の研修医の先生にも参加していただき、心肺蘇生の実習ではお力をお借りしました。このような実習は定期的に行っていくことが大事ですので、今後の講演会でも取り入れていく予定です。

演会では初めて性教育をテーマに行いましたが、鹿児島市内の中学校、小学校では助産師が中心になつて盛んに行われていますが、まだ与論ではこのような講演会はなく大変ありがたいとお言葉を頂きました。発達障害児への対応は皆さんが苦勞されているようで、今後継続して講演してもらいたいということでした。

今回2年ぶりの開催でしたが、今年も大いに盛り上がりました。与論の方々のこの会への期待に對してお応えできるように、来年以降も開催できればと考えております。

ご連絡

「こねっと通信」は、会員の方々と本部・事務局を結ぶコーナーです。ご意見・ご要望をドンドンお寄せ下さい。

《宛先》 ● 千890-8520鹿児島市桜ヶ丘8-35-1 鹿児島大学医学部・歯学部附属病院 小児診療センター小児科内「こねっと通信」係
● E-mail kodonpo@m.kufm.kagoshima-u.ac.jp

子ども救急箱

《心育て》

NPO法人子ども医療ネットワーク会員
赤池 治美
(やまびこ医療福祉センター)

2011年9月26日日本新聞掲載

赤ちゃんの心身の健やかな成長は、両親の願いです。では、どんな心がけが子育てに求められるのでしょうか。

赤ちゃんの育ちを思い浮かべてください。首がすわればお座りし、はいはいをした後に歩きまわります。身体の育ちが順々に進むように、実は二歳も段階に沿って発達します。この二歳の土台づくりが「基本的信頼」を築くことといわれます。

赤ちゃんは、人の顔や声などに最もよく反応するように、生まれた時から人へ働きかける力を備えています。そして、身近な人たち、主にお母さんは、赤ちゃんのサインを読み取って応えています。

おなががすくと満たしてくる。機嫌が悪いと抱っこしてくれる。不安な時は、安心させてくれる。赤ちゃんはこのようなお母さんとのやりとりを重ねてお母さんを通り、この世界を好きになります。

これを「基本的信頼を築く」といいます。つまり、「二歳育て」は生まれた時から始まっているのです。

「基本的信頼」の次には「自律性」や「自発性」などの段階に入ります。「二歳」で大切なポイントは、赤ちゃんの欲求に「ほどよく」応えることです。先回りせず、欲求通りに応えることです。抱っこやほほ笑みかけなどの情緒的交流も大切ですね。でも、決して堅苦しく考えないでください。自分なりの子育てをつくりましょう。

子育ては一人で行うものでもありません。お母さんがゆつたりとした気持ちでいるためには、お父さんを含めた周囲の理解や協力も必要です。地域の子育て支援や発達相談会を利用するなど、心配やつらさを一人で抱え込まないでください。

赤ちゃんが喜ぶ、それを見てお母さんもお父さんもうれしくなる。そのようなりとりの積み重ねが、「二歳の土台をつくる」のです。

募集

「こねっと通信」表面に掲載させて頂けるお子様の写真を募集しております。上記住所にお送り頂くか、E-mail kodonpo@m.kufm.kagoshima-u.ac.jp まで

※「子ども救急箱」の記事は2006年4月から隔週に掲載されています。

